

提出日: 2024 年 5 月 29 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	新免 康

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日
	2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日
	3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日
	4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	本研究では、ウイグル人の近代的歴史叙述の嚆矢とされるネゼルゴジャ・アブドウセメトフ『タランチ・テュルクたちの歴史』(アルマアタ、1922 年)の特徴と政治的・社会的背景について検討することを目指した。そのために、とくにアルマトウやタシュケントでの海外調査により、本著作の著者および本著作内容に関わる資料、それに関連して、20 世紀前半期のカザフスタンのウイグル人社会の状況とその政治的・社会的環境に関する史料の調査・収集に従事した。また、現代ウイグル語等の史料から、新疆のウイグル社会とカザフスタンのウイグル社会との関係性・交流に関する材料を収集し、検討した。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	本研究においては、『タランチ・テュルクたちの歴史』の日本語訳を進め、その作業を完成するとともに、著者の思想と活動の具体相、および本著作の歴史叙述の特徴を、その政治的・社会的背景を考慮に入れつつ分析した。その結果、1930・40 年代のエスノ・ナショリズムの顕在化へとつながる、近代ウイグル人社会の文化変容の具体的な様相の一端が明らかになった。とくに、教育・文化・思想面の近代性の流入を軸として、知的営為面での中央アジアから新疆への顕著な影響をはじめとする、カザフスタンと新疆のウイグル人社会の間の関係性に関する重要な新しい知見が得られた。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	本研究を踏まえて、中国とロシア領・ソ連領中央アジアとの間の国境を越える移動・交流の文脈の中で、広域的な視点から新疆(ウイグル地域)と中央アジアにまたがる領域の「近代化」の特質をとらえるための考究を、さらに進展させることを目指したい。とりわけ以下の課題に焦点を当てる。ウイグル人社会に顕著な傾向として文学分野が重要な地位を占めていることに鑑み、文学創作を軸とする文字文化が近代以前から現代にかけてどのように変容し、そのことが社会・文化動態の中でどのような意味をもったのかという点について、系統的な検討を加えたい。その際、当事者の越境移動・人的交流のみならず出版メディアを介した相互影響がどのような様相を呈したのかという問題に留意する。